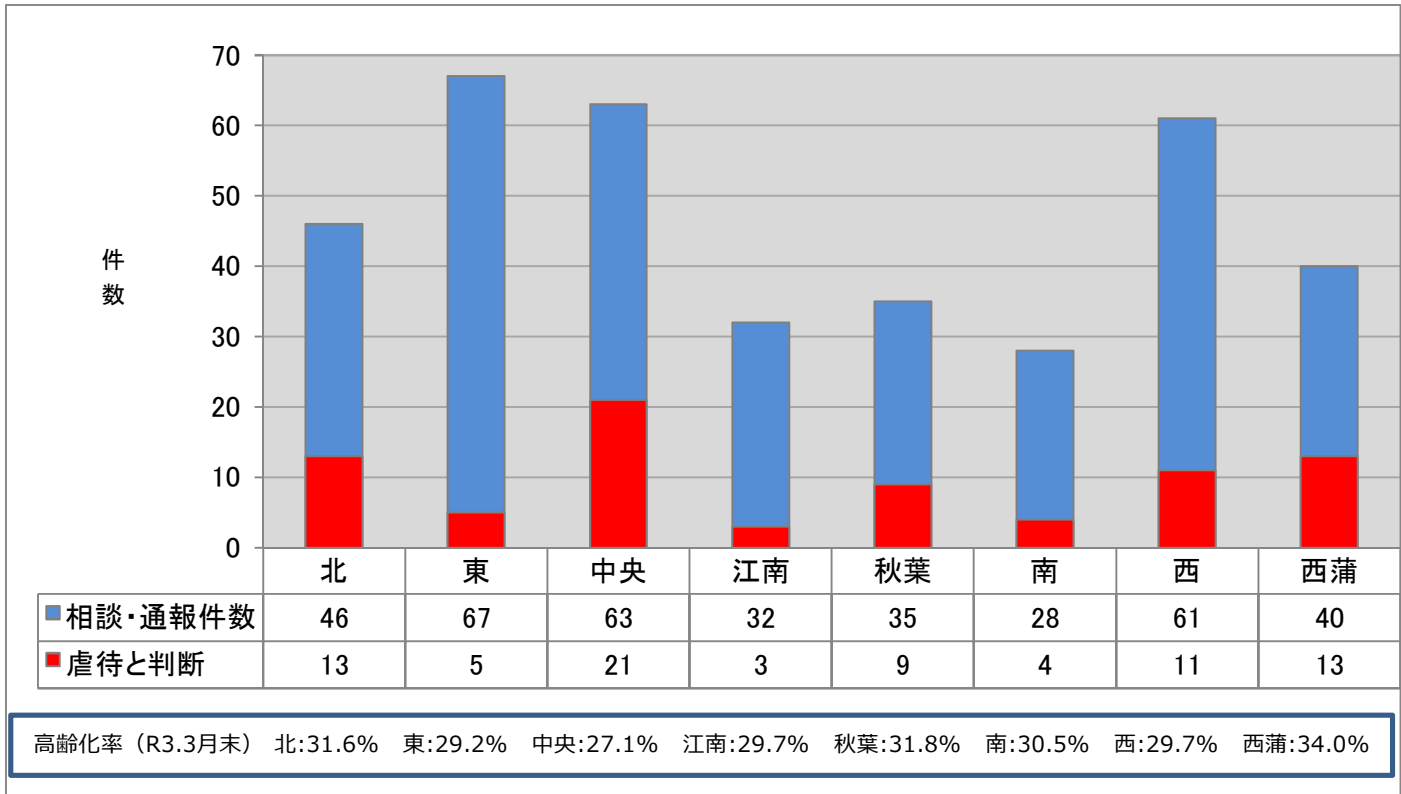


令和2年度 養護者による 高齢者虐待に関する新潟市の状況 (R3.3.31現在)

資料 1-2

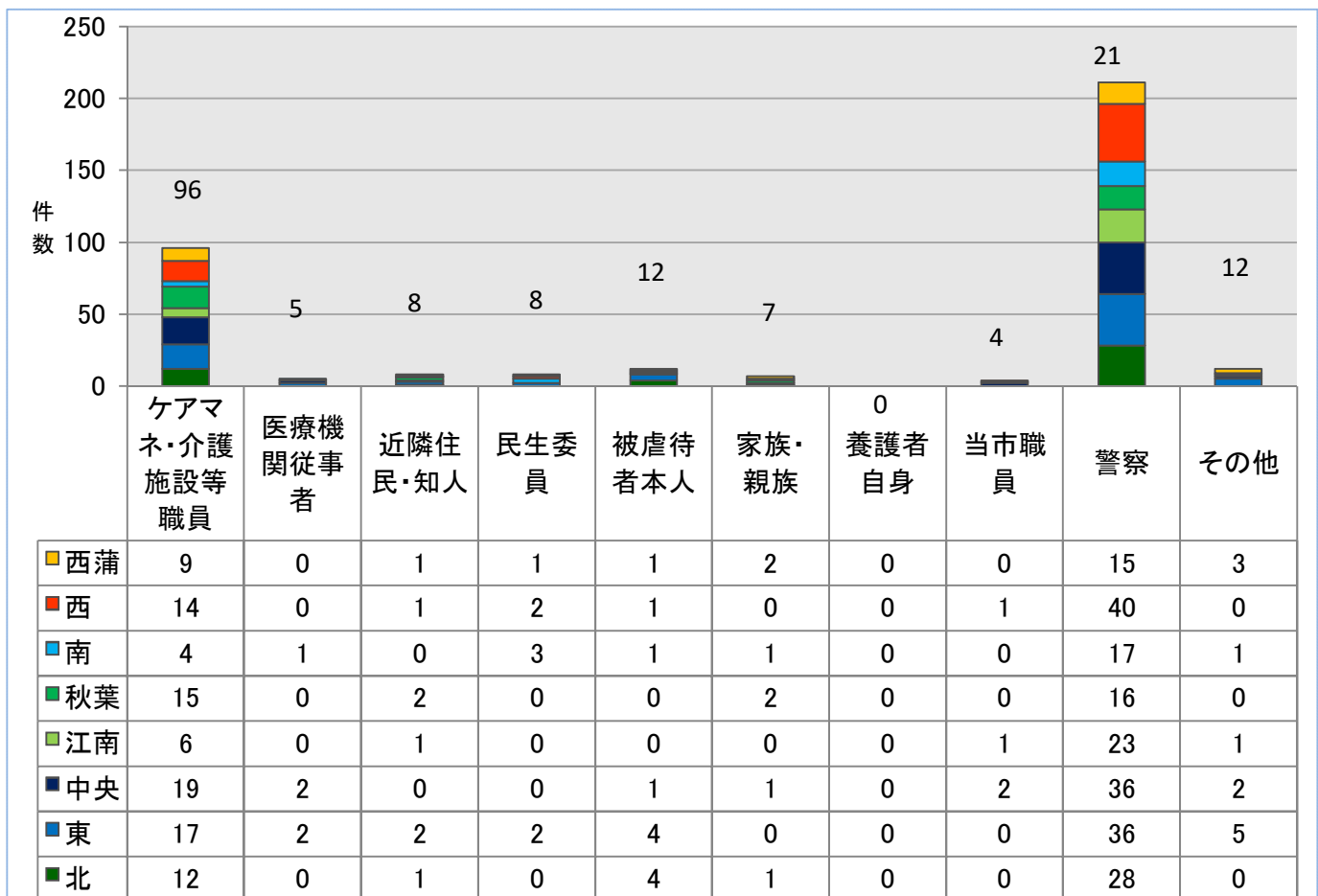
①相談・通報件数及び虐待と判断した件数(事実確認が年度を跨いだ10件を含む)

n=372



②虐待の相談・通報者(複数選択あり)

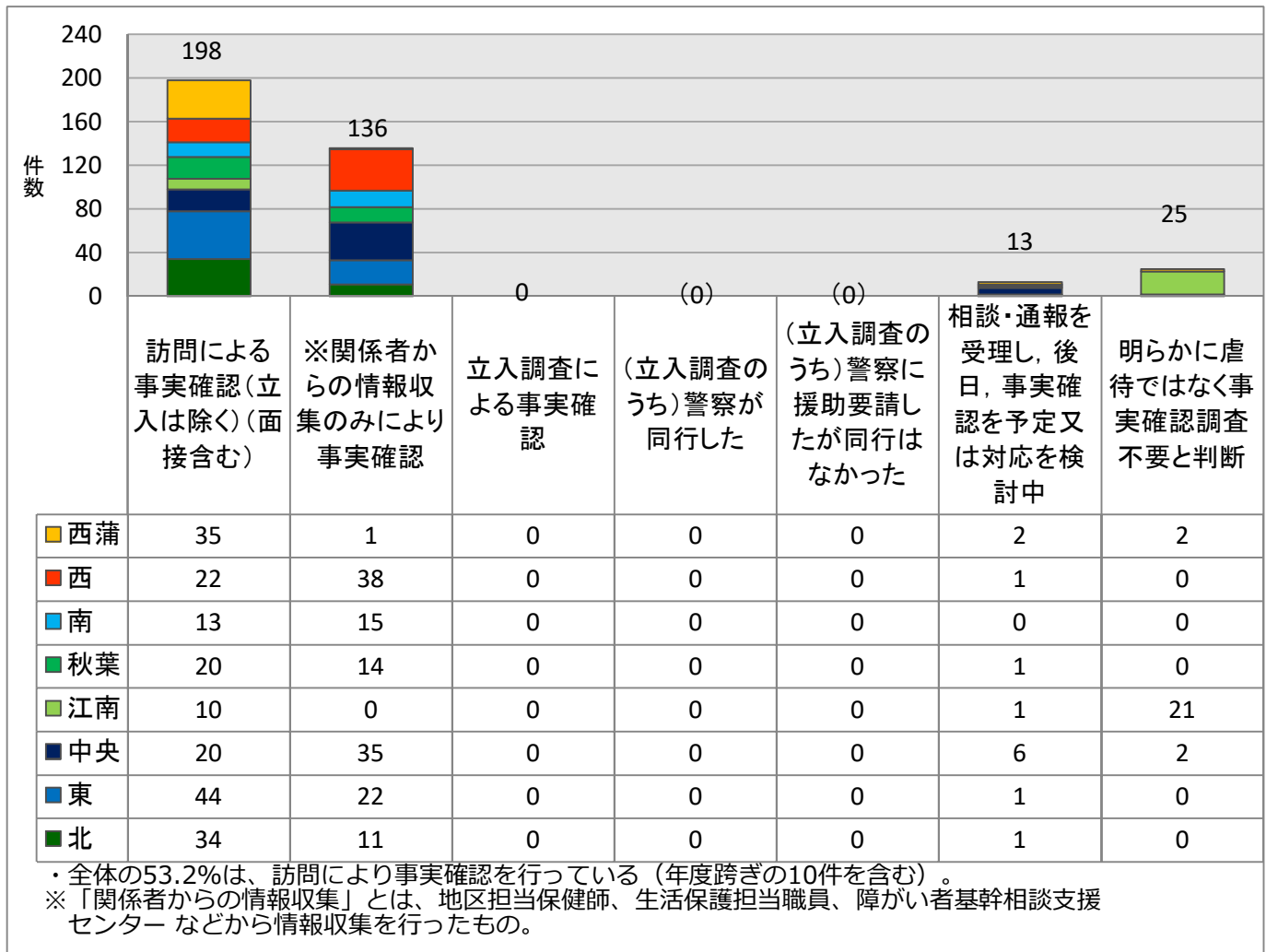
n=362



・「警察」からの相談は211件で、全体の58.1%を占めるが、すべての区で最も多い。
※「その他」とは、認定調査員、社会福祉協議会職員 など。

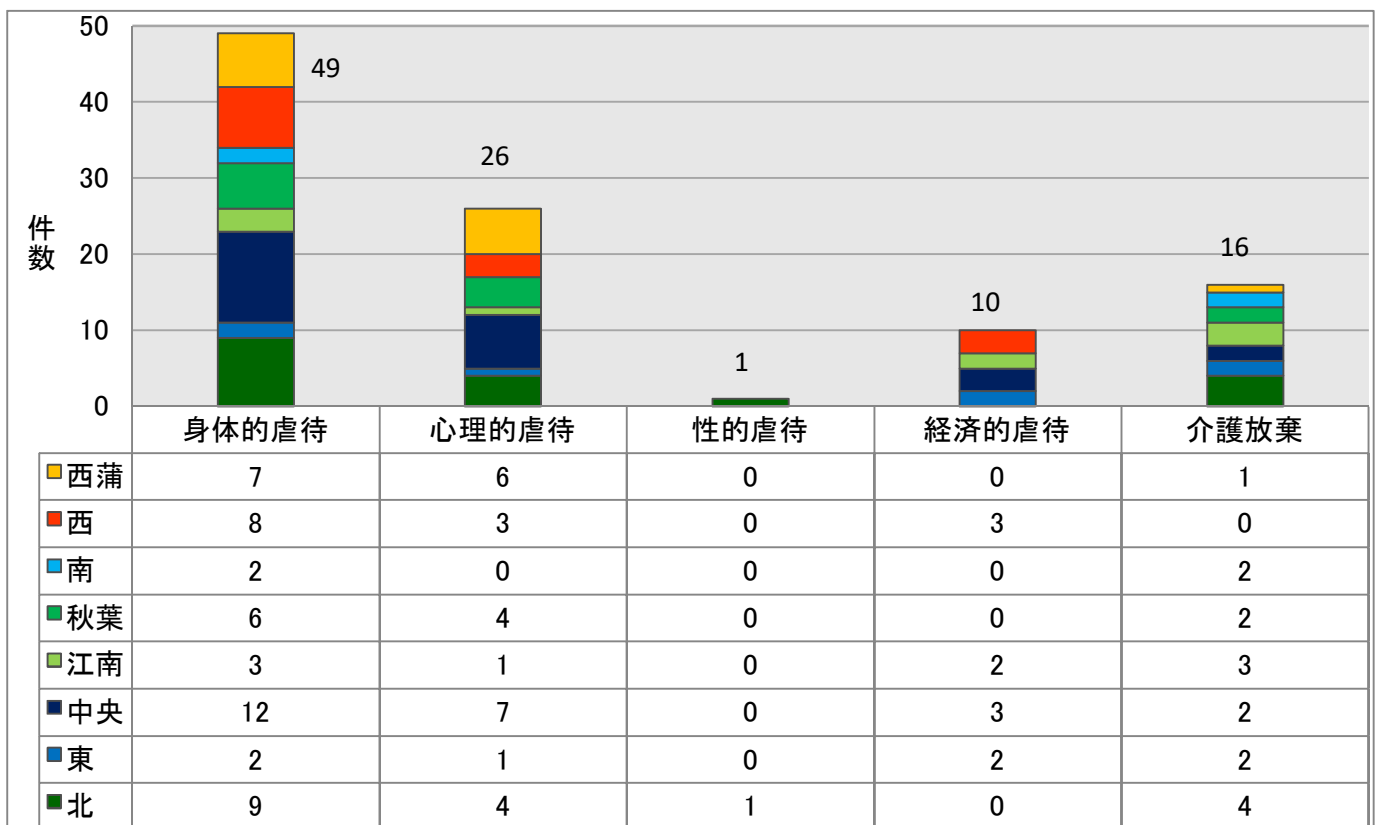
③事実確認の状況 ※()は再掲

n=372



④虐待種別の内訳(複数選択あり)

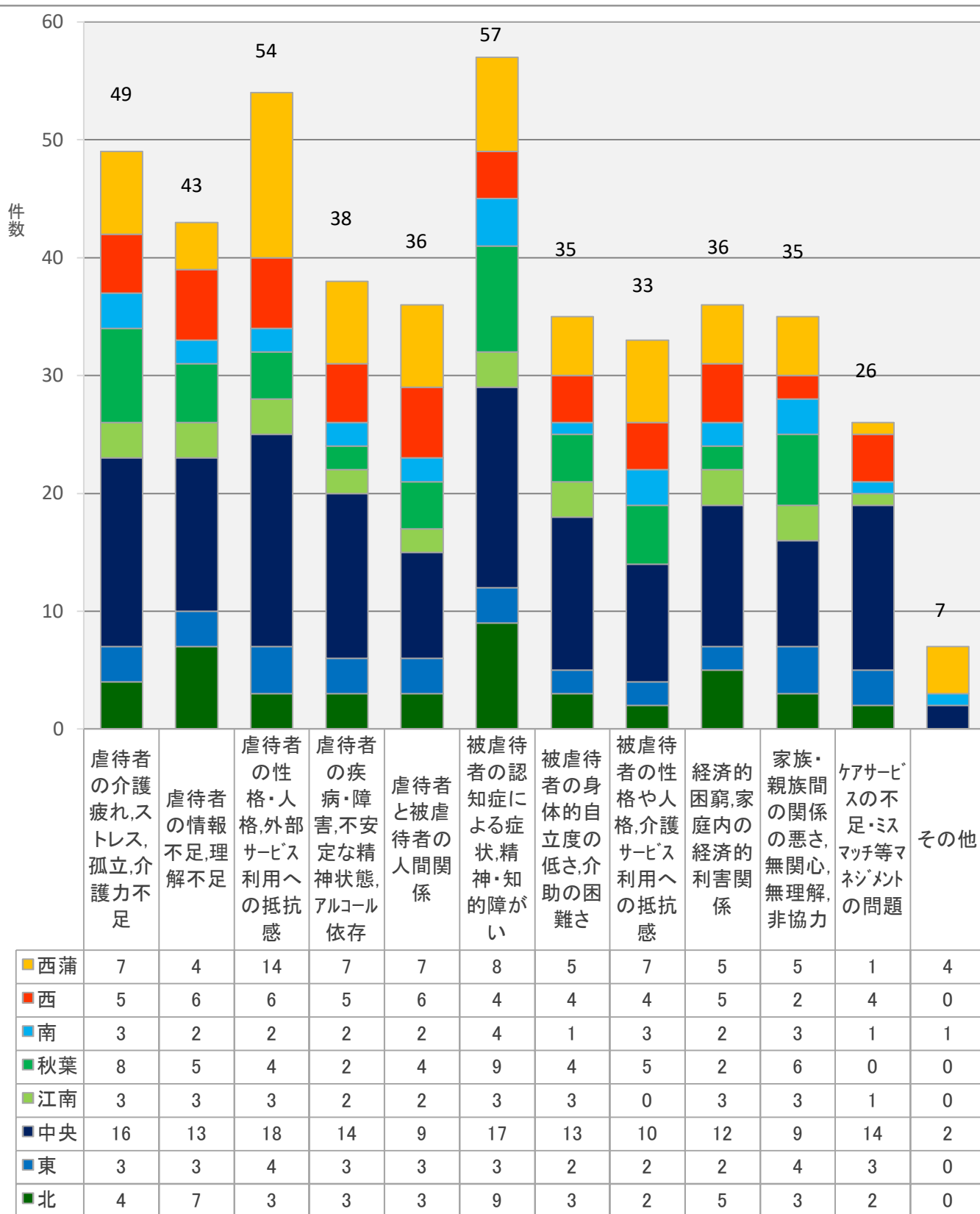
n=79



・「身体的虐待」が、すべての区で最も多い。

⑤虐待の発生に影響を与えたとと思われる要因(複数選択あり)

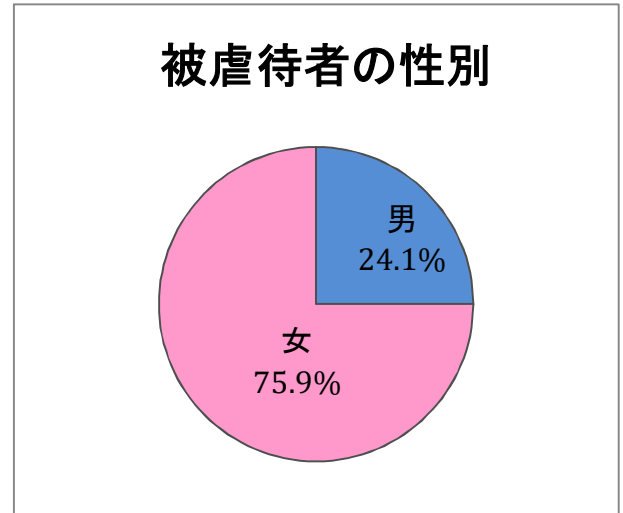
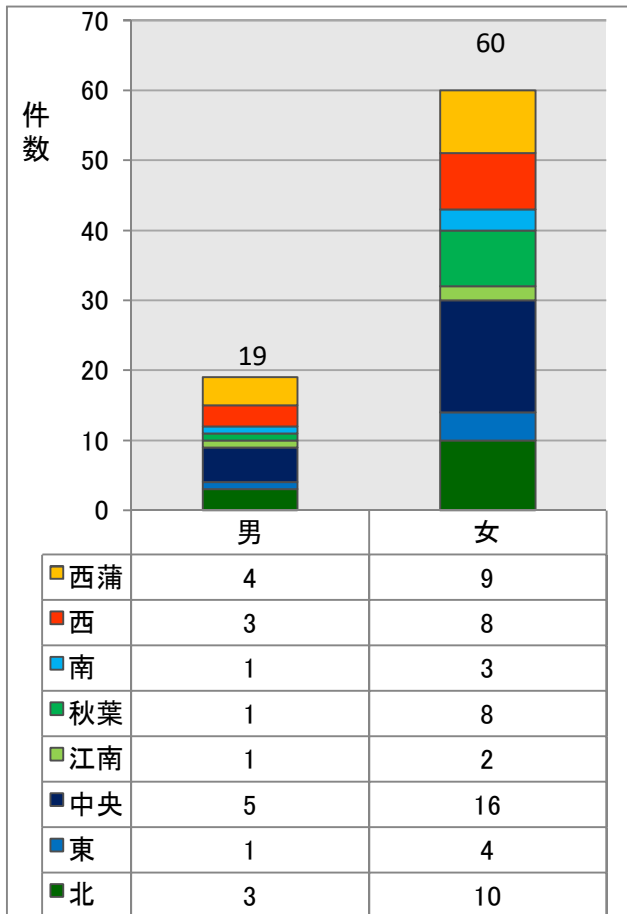
n=79



- ・虐待の発生に影響を与えたとと思われる要因は、多い順から「被虐待者の認知症による症状、精神・知的障がい」が57件で72.2%、「虐待者の性格・人格、外部サービス利用への抵抗感」が54件で68.4%、「虐待者の介護疲れ、ストレス、孤立、介護力不足」が49件で62.0%である。
- ・区ごとでは、多少のバラつきは見られるものの、特徴的なものまでは見受けられない。
- ※「その他」とは、被虐待者の行動が予測できない、新型コロナウイルス感染症感染への不安、被虐待者の配偶者の認知機能の低下 など。

⑥被虐待者の性別

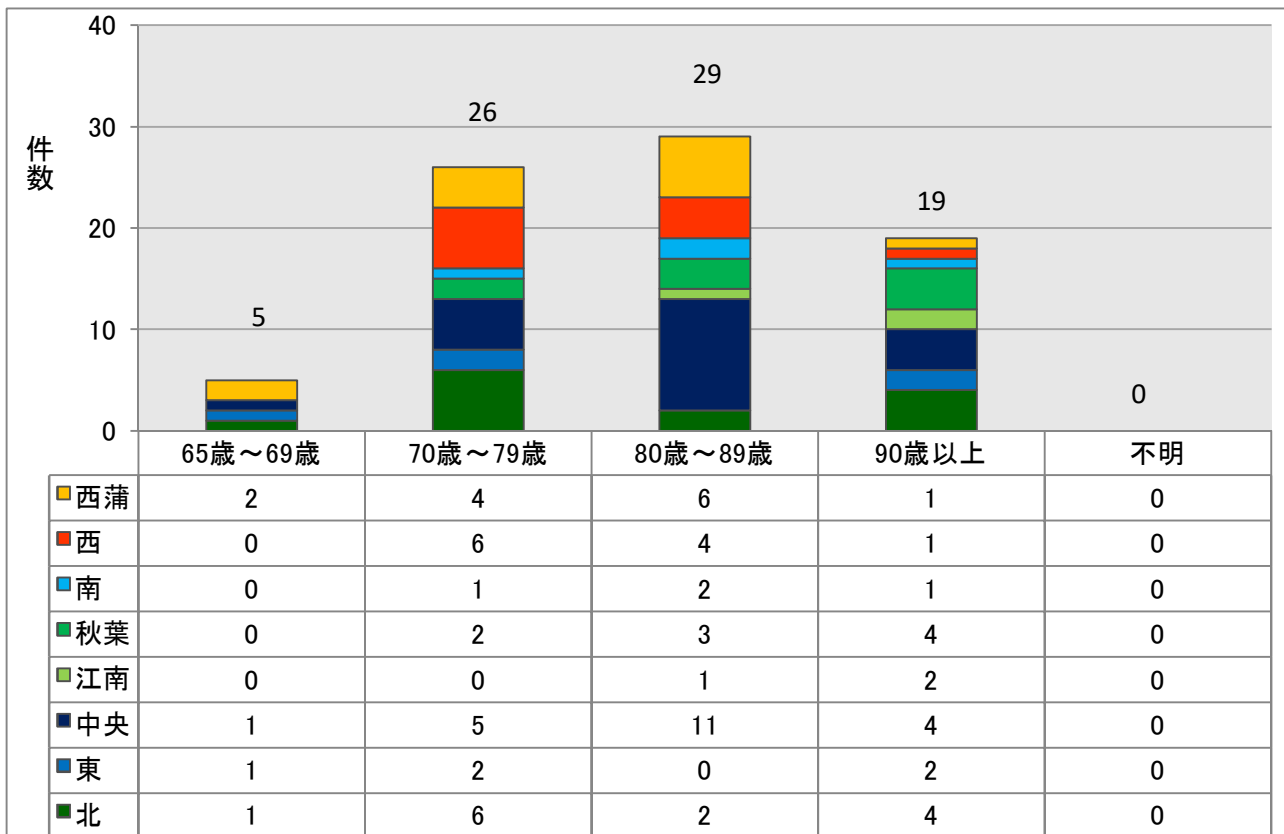
n=79



- ・被虐待者（虐待を受けている者）は、「女性」が60人で75.9%を占めている。
- ・西蒲区は他区に比べ、「男性」の割合が多い。

⑦被虐待者の年齢

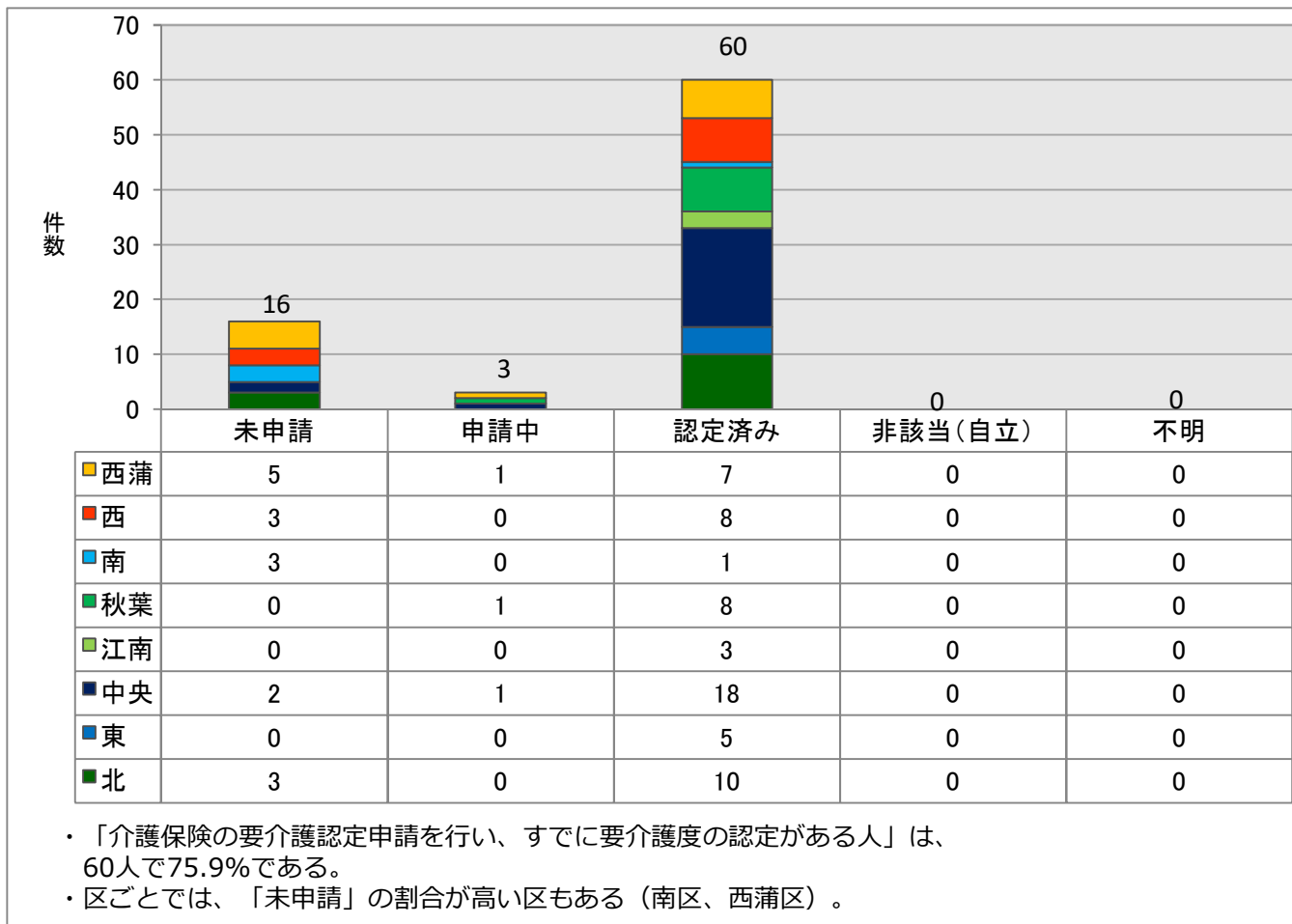
n=79



- ・被虐待者の年齢層は、「80歳代」が最も多く29人で36.7%、次いで「70歳代」が26人で32.9%である。
- ・区ごとでは、「90歳以上」が最も多い区もある（東区、江南区、秋葉区）。

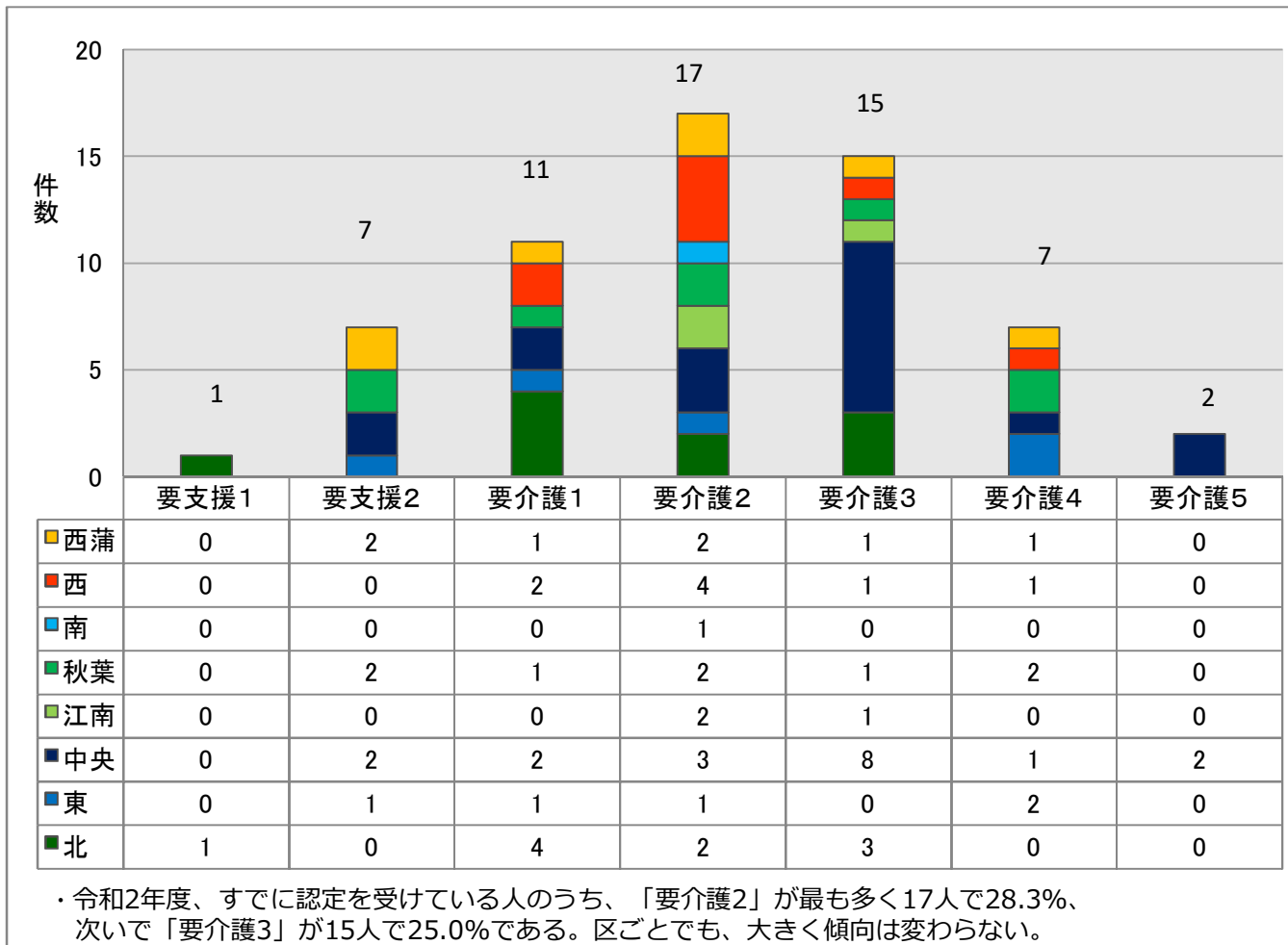
⑧被虐待者の要介護認定の有無

n=79



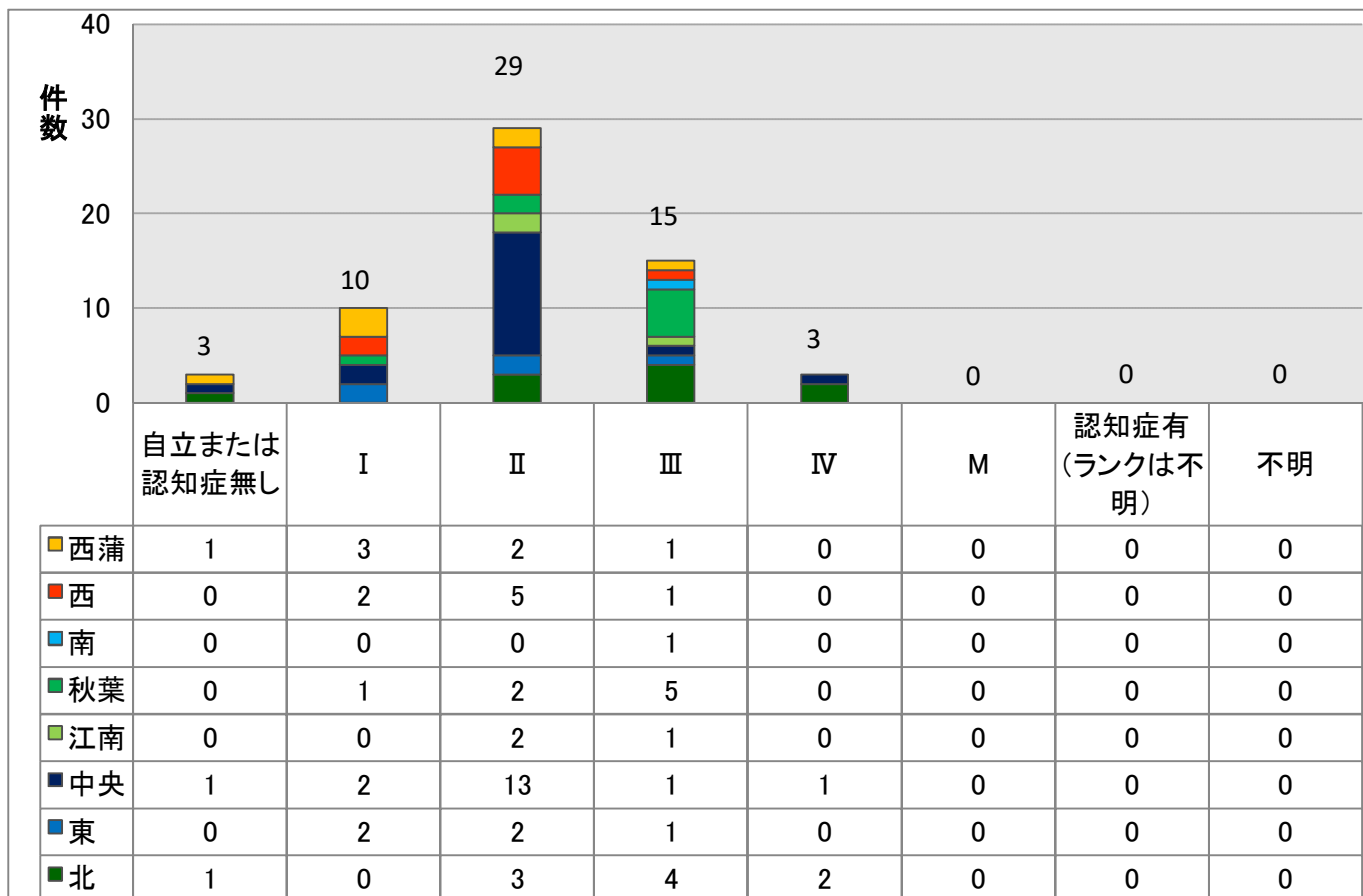
⑨被虐待者の要介護度

n=60



⑩被虐待者の認知症の有無

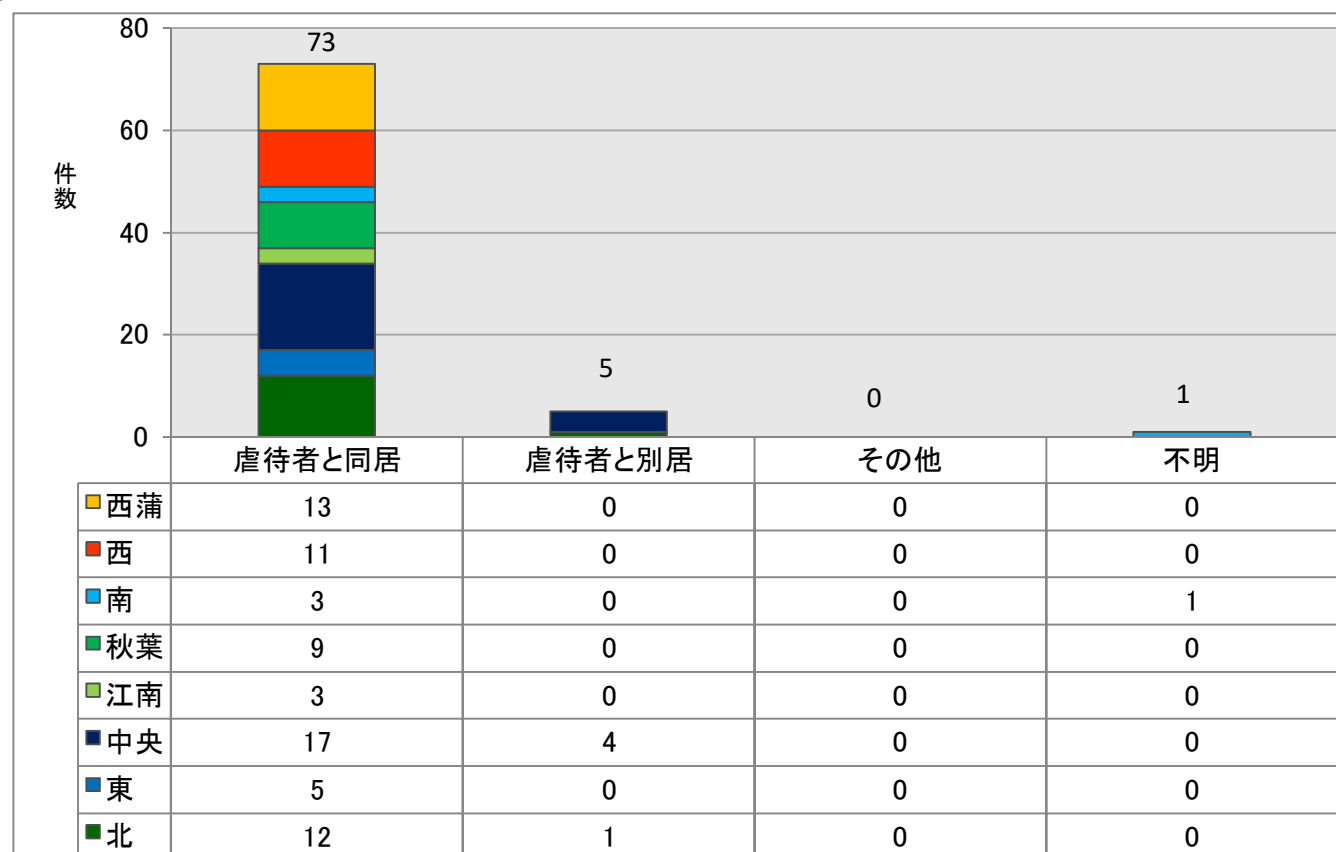
n=60



・すでに要介護認定を受けている人の認知症高齢者の日常生活自立度は、日常生活に支障をきたす症状が出現し始める「自立度Ⅱ」が最も多かったが、北区や秋葉区では、それより重度の「自立度Ⅲ」が多かった。

⑪虐待者との居住形態の内訳

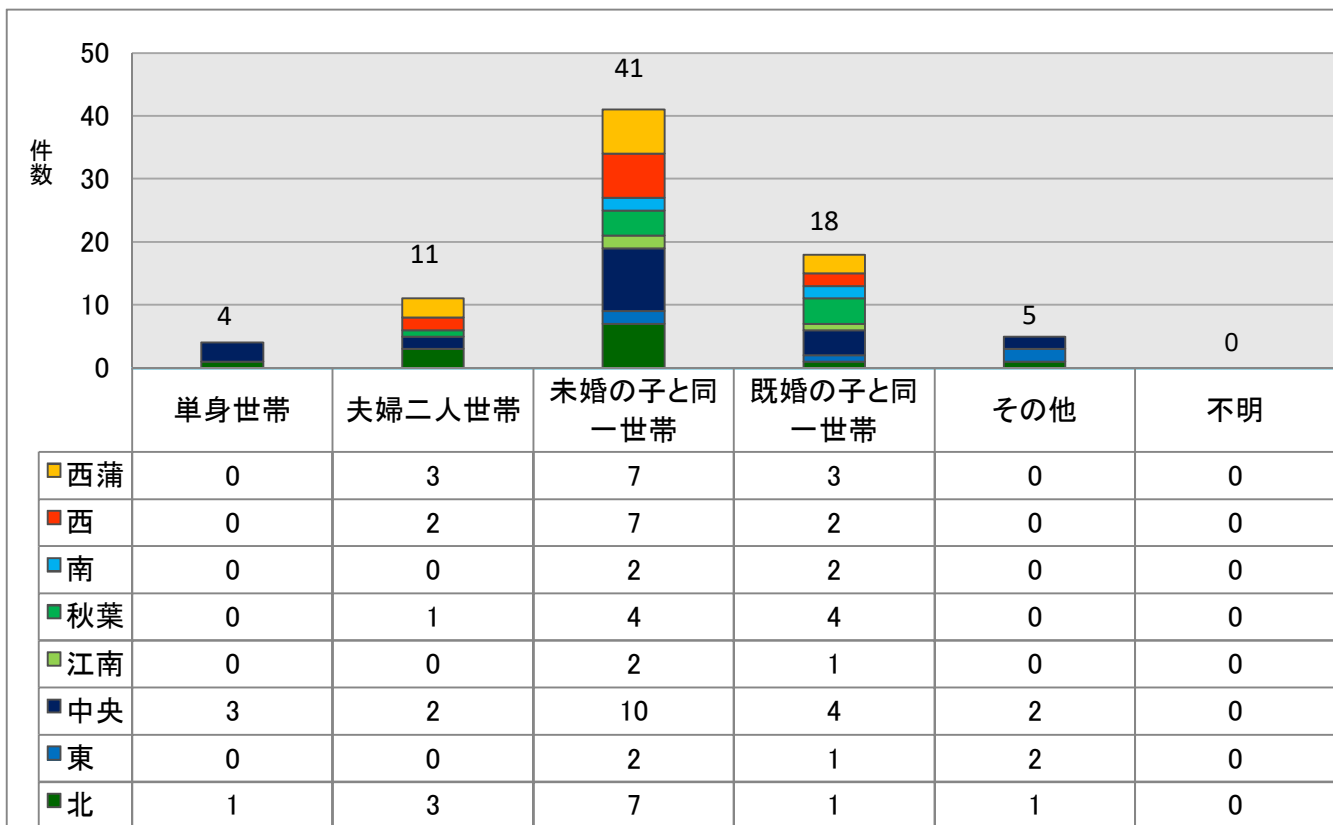
n=79



・「虐待者と被虐待者が同居」している事例が、すべての区で多かった。

⑫被虐待者を含む世帯構成の内訳

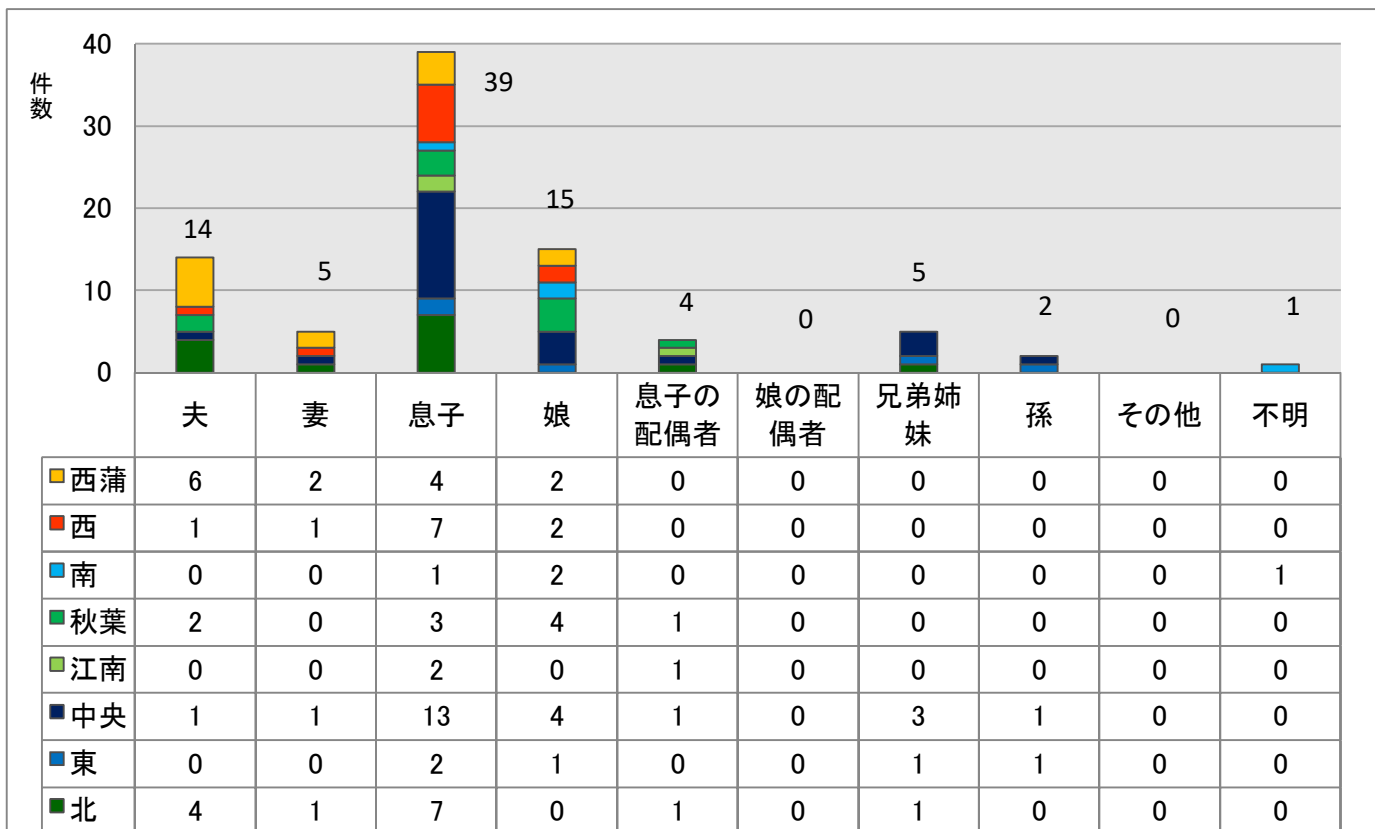
n=79



・世帯構成は、「未婚の子と同一世帯」が最も多く、次いで「既婚の子と同一世帯」多く、併せて全体の約75%を占める。
 ※「その他」とは、兄夫婦家族と同居、孫夫婦と同居、孫と同居など。

⑬虐待者の続柄(複数選択あり)

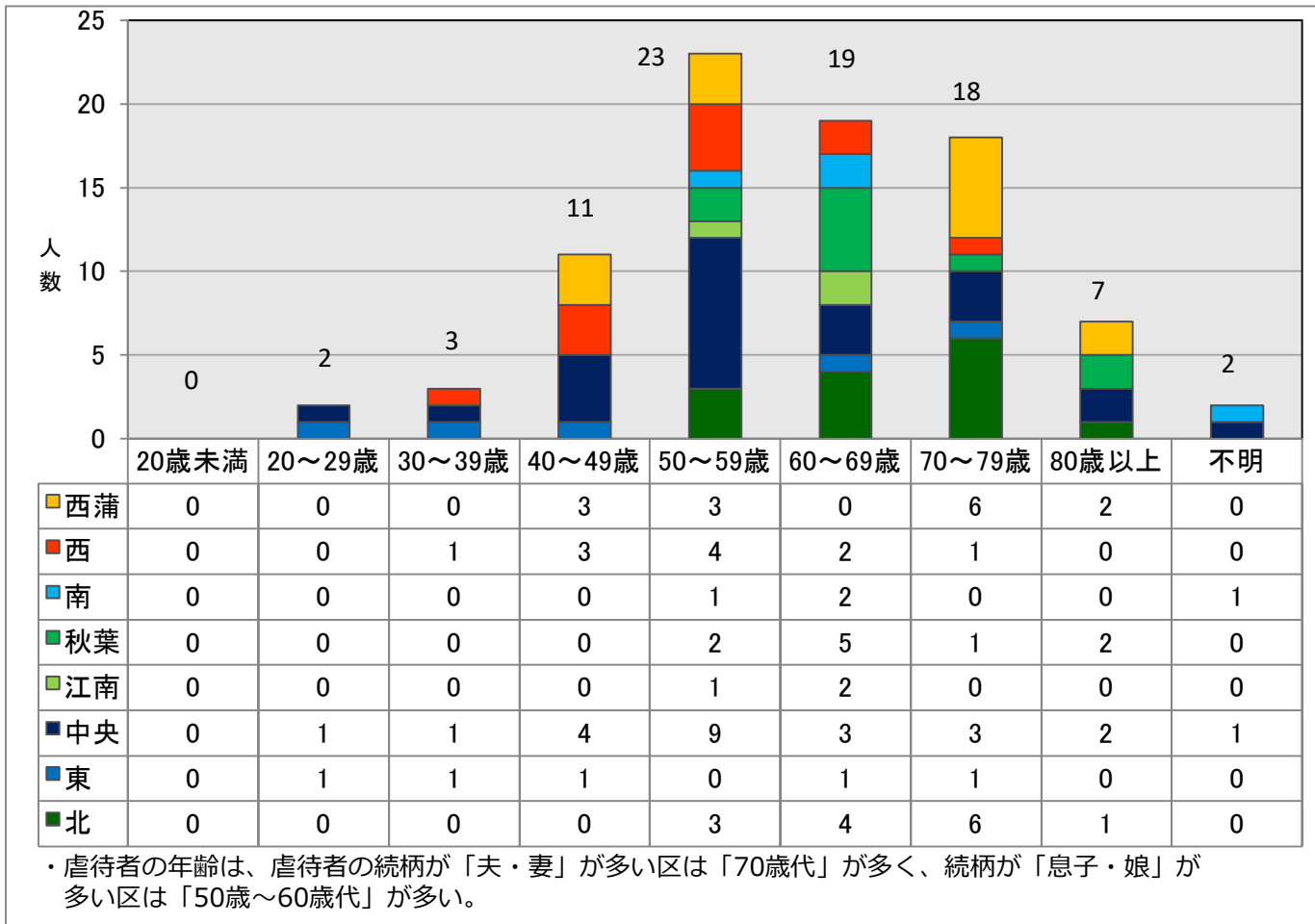
n=79



・虐待者(虐待を行った者)の続柄は、「息子」が最も多く、次いで「娘」が多く、全体の約70%を占める。
 ・区ごとでは、秋葉区、南区では「娘」が最も多く、西蒲区では「夫」が最も多かった(複数虐待者:6件)。
 ※「不明」とは、誰が行ったかが判断できなかったが、結果的に虐待となっていた事例。

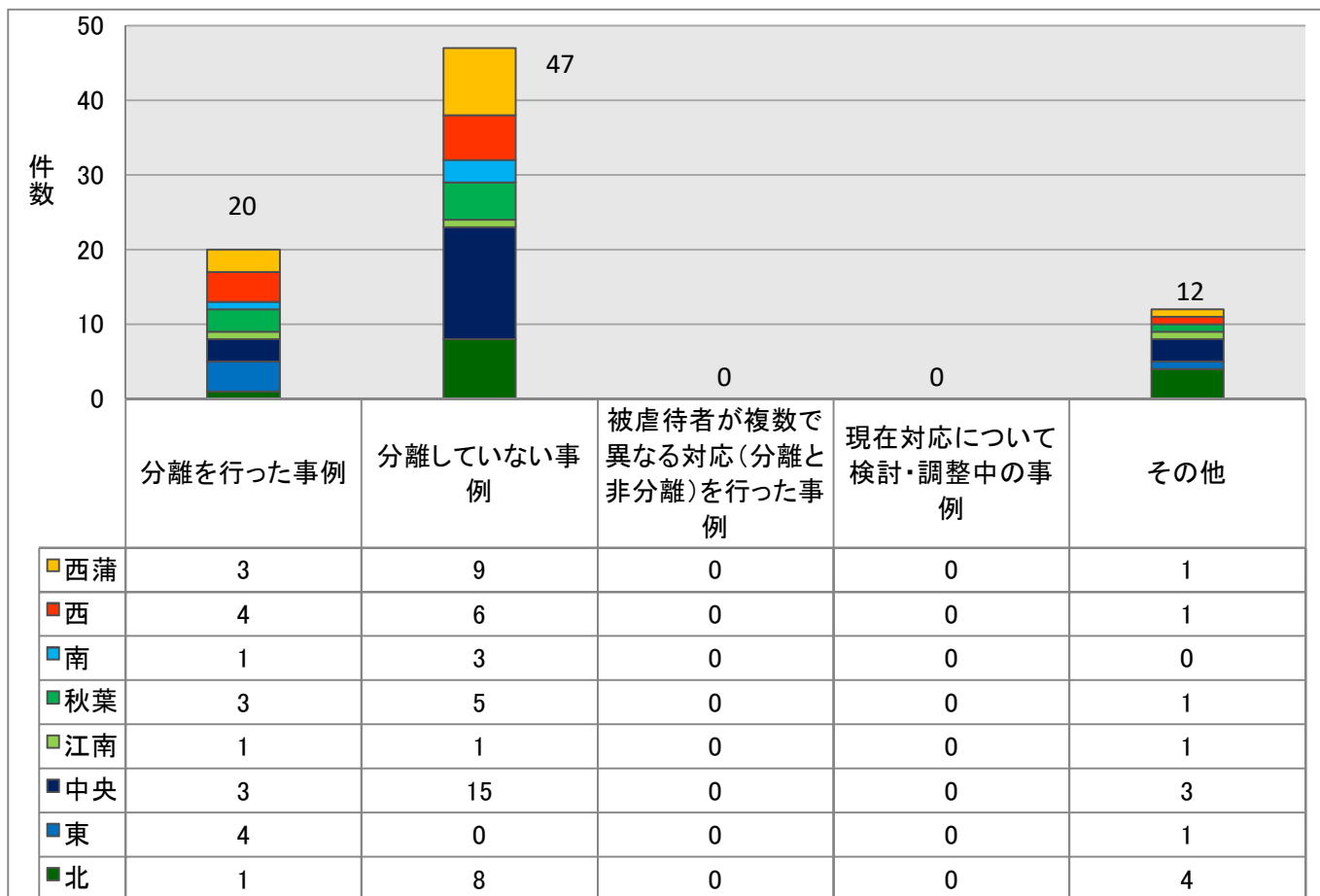
⑭ 虐待者の年齢

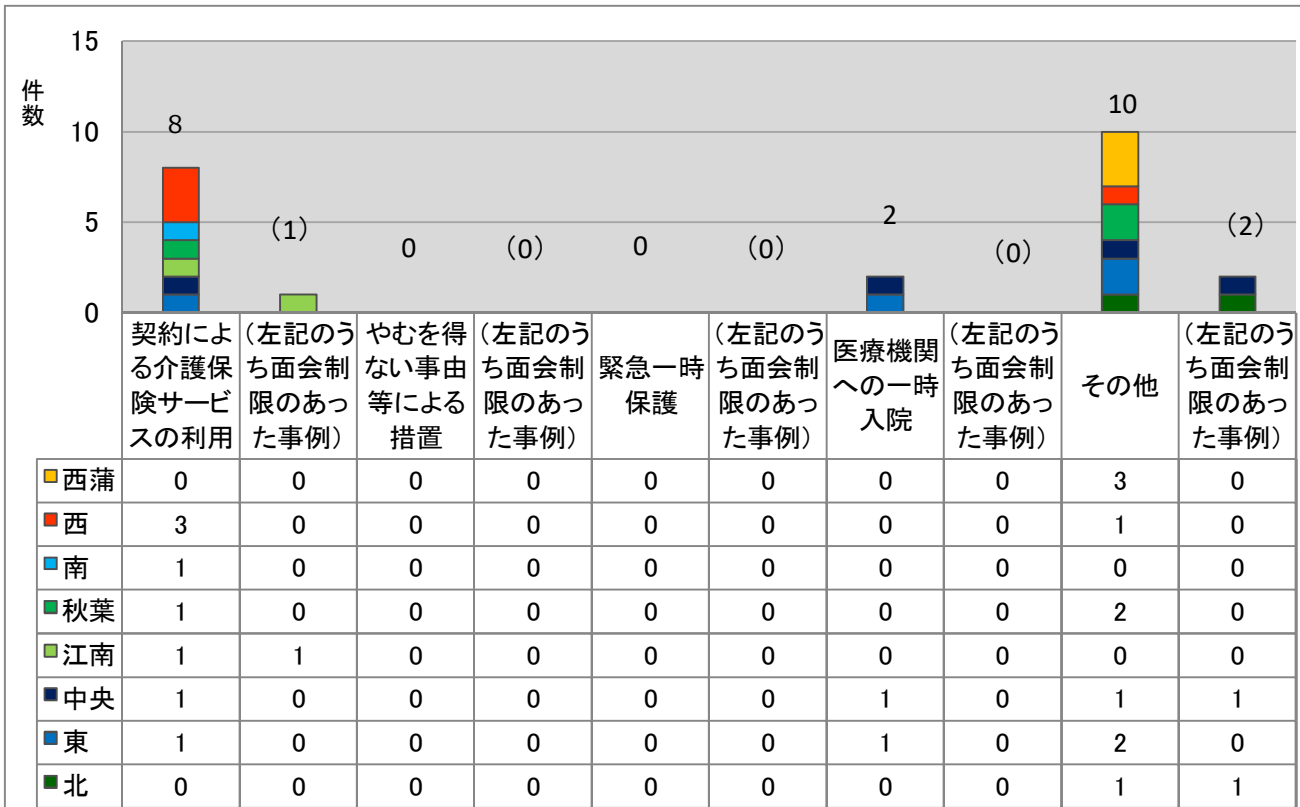
n=85



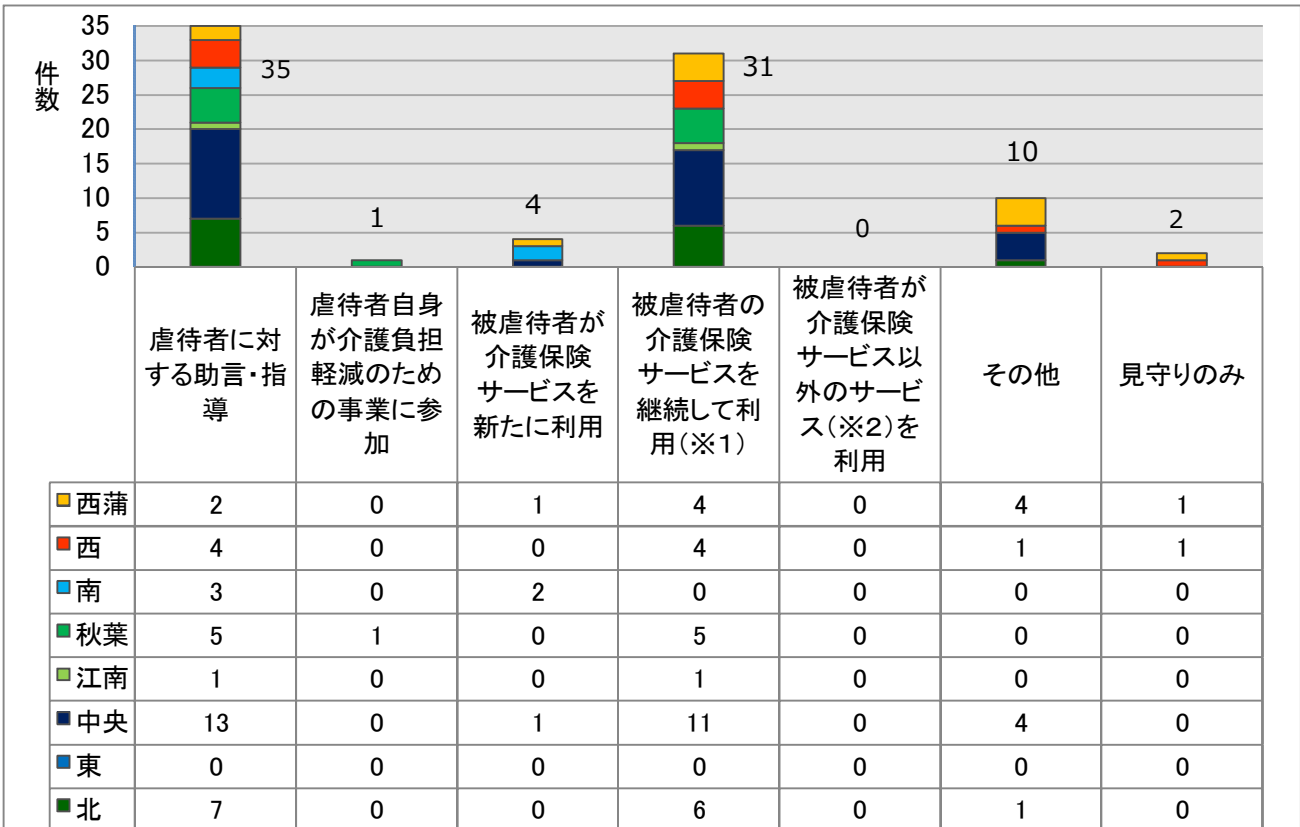
⑮ 虐待者との分離の有無

n=79

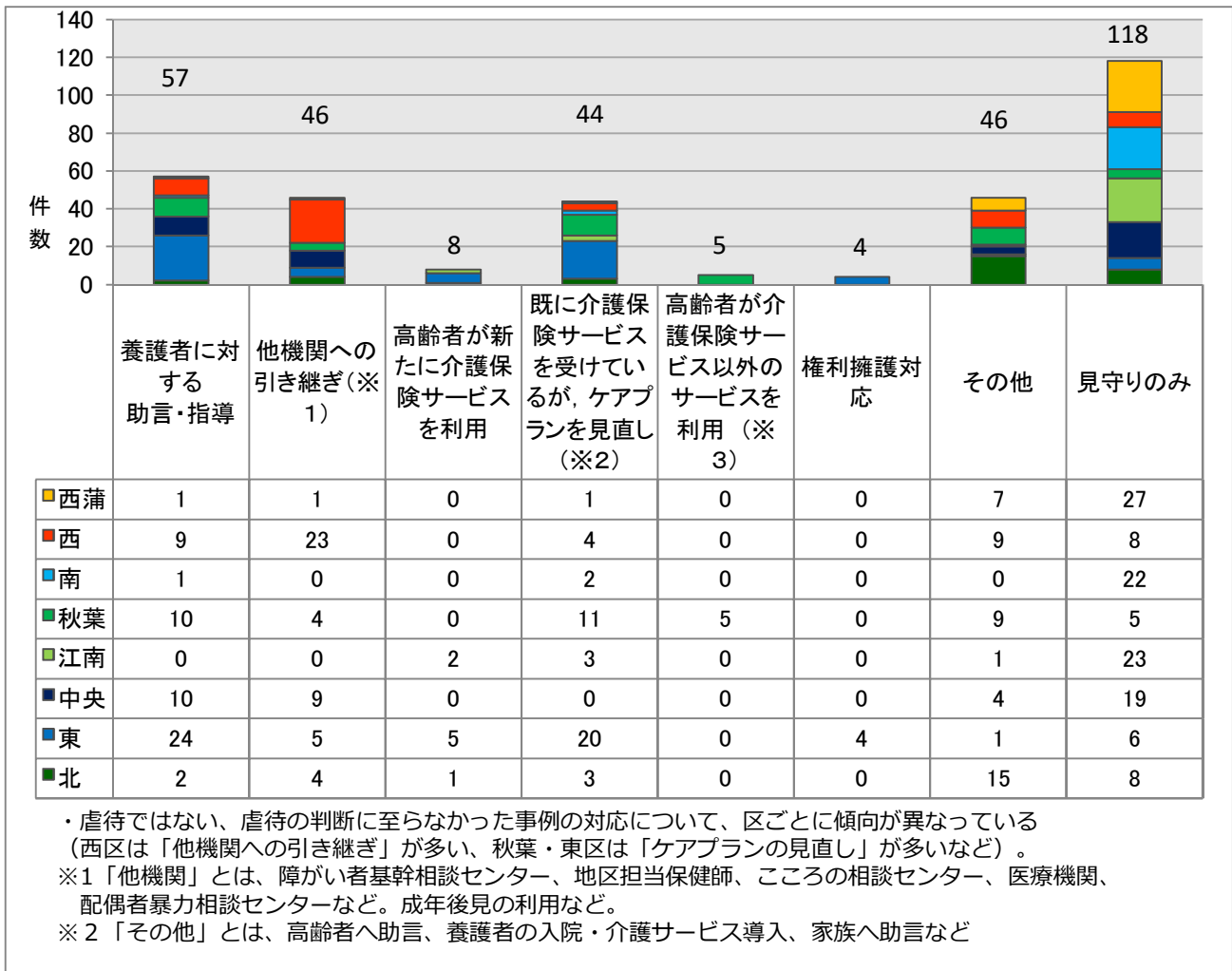




・「契約による介護保険サービスの利用」が最も多かったが、「医療機関への一時入院」を行った事例もあった。
 ※「その他」とは、虐待者の転居、被虐待者のアパートや親族宅への転居、有料老人ホームへの入居 など。



・分離を行っていない事例の対応について、「虐待者に対する助言・指導」や「被虐待者の介護保険サービスを継続して利用」が多いが、区ごとでも、この傾向は変わらない。
 ※「その他」とは、養護者へ受診勧奨、被虐待者に対する助言、親族に支援依頼 など。
 ※1 被虐待者に対するケアプランの見直し。
 ※2 包括Cや民生委員などの定期的な見守りや定期訪問 など。



⑲権利擁護に関する対応 ※()は再掲

